（　　）組（　　）番　氏名（　　）

2020「日本史研究」授業プリント№6

第５章　武家社会の成長

３　室町文化

《室町文化》

１　室町文化の推移

南北朝文化 → （①　　）文化 → （②　　）文化

→文化の地方普及

２　室町文化の特徴

幕府が京都に所在 → 武家文化と公家文化の融合

東アジアとの交流 → 大陸文化と伝統文化の融合

惣村・都市の発達 → 庶民文化の発達

応仁の乱による

京都の荒廃 → 中央文化と地方文化の融合

↳ 日本固有の文化の確立

↓

今日「日本の伝統文化」とされている諸芸能

（③　　）・狂言・（④　　）・生花など

《南北朝文化》

１　南北朝文化の特徴

・南北朝動乱の緊張感を反映 ― 歴史書・（⑤　　）

・.新興武士の「（⑥　　）」の気質 ― （⑦　　）・能楽

・茶寄合・闘茶

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

２　文学

・.歴史書　・「増鏡」― 源平争乱～南北朝期を公家の立場で描写

・「(⑧　　)」―北畠親房，南朝の正統性を主張

・「(⑨　　)」―足利氏の政権掌握を武士の立場で描写

・.軍記物　・「太平記」― 南北朝期を描写，太平記読みが流布

３　諸芸能

・連歌 ― 和歌を上句と下句にわけ，一座の人びとが連作

公家・武家を問わず流行

・能楽 ― 宗教的な芸能から分離した舞台芸能

・(⑩　　) ― 闘茶(茶の異同を飲みわける賭事)が流行

《北山文化》

１　北山文化の特徴

北山殿（⑪　　）の建築様式が時代を象徴

└― 初層 ＝ 寝殿造，　第二層 ＝ 和様，　第三層 ＝ 禅宗様

２　臨済宗

足利尊氏が（⑫　　）に帰依し，幕府が保護

・（⑬　　）の制 ― 南宋にならい，僧録を置いて官寺を管理

南禅寺を五山の上に置く

京都五山＝天竜寺・相国寺・建仁寺・東福寺・万寿寺

鎌倉五山＝建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺

・五山僧―政治・外交・文化(水墨画・宋学・文学)で活躍

水墨画 ― 明兆・(⑭　　)「瓢鮎図」・「寒山拾得図」(伝周文)

五山文学 ― （⑮　　）・義堂周信

(⑯　　) ― 禅の経典・漢詩文集などを出版

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

2020「日本史研究」授業プリントNo.7

３　能(能楽)

・神事芸能(（⑰　　）・田楽)が歌舞・演劇の形で発達

大和猿楽四座 ― （⑱　　）を本所とする猿楽座

└（⑲　　）・宝生・金春・金剛

観阿弥・（⑳　　）は芸術性の高い猿楽能を完成

『（㉑　　）=(花伝書)』(能楽の理論書)

<u>３代将軍足利義満の保護</u>

《東山文化》

１　東山文化の特徴

東山山荘（①　　）の建築様式が時代を象徴

└ 下層 ＝ 書院造風，上層 ＝ 禅宗様

<u>禅の精神，幽玄・侘びを精神的基調</u>とする

２　（②　　）―押板・棚・付書院・襖障子・明障子を用いた住宅様式

近代和風住宅の原型で，慈照寺（③　　）が典型例

３　庭園―禅の精神で統一

└（④　　）― 岩石＋砂利 → 象徴的な自然をつくり出す

作庭技術 ― 河原者(山水河原者)

└ 善阿弥 ← 同朋衆

（⑤　　）石庭・大徳寺大仙院庭園

４　絵画

・水墨画

（⑥　　）― 明で技術を学んで帰国，日本的な水墨画様式を大成

「四季山水図巻」「秋冬山水図」「天橋立図」

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

・大和絵

（⑦　　）派―土佐光信

応仁の乱後に宮廷絵所預や幕府御用絵師となる

（⑧　　）派―狩野正信「周茂叔愛・図」,「大仙院花鳥図」(伝元信)

水墨画に伝統的な大和絵の手法を導入

５　工芸―能面・金工（⑨　　））

６　茶道(茶の湯)

（⑩　　）―簡素で閑寂な草庵の茶に侘びを求めた

└（⑪　　）→ 武野紹鷗 → 千利休

└ 茶と禅の一体化を主張

７　花道(生花)―座敷の床の間飾り

立花 ― 京都六角堂（⑫　　）→ 池坊専応 → 池坊専好

８　学問

・（⑬　　）―『建武年中行事』『職原抄』『公事根源』

・古典研究　（⑭　　）―『古今和歌集』の解釈を秘事口伝

└ 東常縁 → 宗祇

（⑮　　） ― 『花鳥余情』『樵談治要』

・（⑯　　）― 反本地垂迹説，神道に儒教・仏教を統合

└ 吉田兼倶が提唱